

令和6年度 全国学力学習状況調査から

羽曳野市立古市小学校

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象 小学校6年生

3. 調査日時 令和6年4月18日（木）

4. 調査結果分析 ※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

	本校の結果や課題	課題解決に向けた手立て
国語	【課題①】「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる」問題の正答率は、全国 74.6%に対して本校 67.2% (-7.4pt) であった。 【課題②】記述式の問題の正答率は、全国 64.6%に対して本校 61.2% (-3.4pt) であった。	①日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くためには、本などの中の言葉から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりすることなどによって、読書の意義をより強く実感できるようにすることが大切である。引き続き、朝読週間や総合や国語などの授業で学校図書を利用し、本に親しむ機会を設ける。 ②本校は今年度から国語科「自分の考えを書く力を育てる」というテーマで研究を行っている。自分の考えや意見を書くときに、考えの根拠、原因や結果などを意識するように授業の改善に努める。また、学習指導要領に準じて作成した『かくカク』（「書くこと」の指導の指標となるもの）に基づいて、学校全体で書く指導に取り組んでいく。
算数	【成果①】記述式の問題の正答率は、全国 51.0%に対して本校 51.5% (+0.5pt) であった。 【課題②】問題文を式に表したり、計算したりする「数と計算」に関する問題の正答率は、全国 66.0%に対して本校 62.7% (-3.3pt) であった。	①昨年度の研究「自分の考えを伝え合い、深い学びをめざして」の成果が表れている。引き続き授業改善に努める。式・答えを導き出したあと、なぜこのような式になるのかを言葉で表現するなど、論理的に言葉で説明する力をさらに養っていく。 ②問題文から必要な情報を汲み取って式に表し答えを求めるだけではなく、計算の仕組みまで授業で考えていく。また、習熟に向けて「学年×10分」の家庭学習を呼びかける。

児童質問調査	①スマートフォン、SNS の使用時間の約束を守っている児童と、守っていない児童では、<u>約束を守っている児童のほうが国語と算数の正答率は 20%以上高かった。</u> ②主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫している。 ③全国の調査結果の概要では、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面での ICT 機器の活用頻度が高いと回答している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。」と示している。 ④学校での学び方が身に付いていると感じている児童は、家庭で1時間以上学習している割合が高い。また、授業で学んだことに有用感がある児童は、4時間以上、家庭学習をしている。 ⑤全国の調査結果の概要では、「普段テレビゲームをする時間が1日当たり3時間以上であるグループは、1日当たり3時間未満のグループより勉強時間が短く、毎日同じくらいの時刻に寝ていないという傾向が見られる。」と示されている。	①使用時間の約束を家庭に応じた形で決めることや、約束を守ろうとする自己コントロール力の大切さを啓発していく。 ②③教師の ICT 機器の活用能力を上げるため、ICT 機器を扱った授業実践を伝えあう場を設ける。また、校務で教師自身がクラウド活用を積極的に行い、主体的・対話的な深い学びに効果的であることを実感していき、子どもたちとの授業にいかしていく。 ④⑤保護者及び児童へ子どものインターネット等の適切な利用について理解を深める取組を推進する。また、学校で自主学習ノートなどを通じて、自ら学ぶ力を養い、家庭学習の時間を増加させる。
---------------	---	--